セミナーに参加しませんか？

年１回開催のセミナー。今年はコミュニティにおける住民同士の対話によって、宗教や文化の違いを超えて、平和な生活を手に入れる取り組みを行っている、バシラン州のNGO事務局長をお招きして、現状と活動についてお伺いします。通訳あり。詳細は6ページをご覧ください。

ビラーン通信 55号

2008年10月31日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11
TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933
E-mail: hands-ty@r07.itscom.net
http://www.jca.apc.org/~hands/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

ミンダナオの現在－治安悪化と洪水による避難民の存在－

この夏４週間の現地滞在中に４つのパートナー団体（CMIP、PIHS、PFP、COWHED）のプロジェクト地を訪問しました（報告はP2～4をご覧ください）。しかし、PIHS の活動は紛争地域の拡大、治安の悪化により休止しているものもありました。

イスラム勢力とフィリピン政府との紛争が続いていたミンダナオでは、1996年、政府とイスラムグループの一派であるMNLF（モロ民族解放戦線）が和平合意を結びました。しかしその際、先祖伝来の土地を誰のものとするか、きちんと取り決めがなされていませんでした。その後先祖伝来の土地には、石油、石炭、天然ガスなど豊富な天然資源が存在することがアメリカの調査によりわかってきました。そして和平を進めるための話し合いを再開しようとしたところ、この和平合意に不満を持っていた別のイスラムグループであるMILF（モロ・イスラム解放戦線）が、武力行動に出ているのです。MNLFは主にラナオ州周辺に居住するマラナオ民族から構成され、MILFは島嶼部のバシラン州周辺に居住するタウスグ民族から構成されているといわれています。つまり同じイスラム教徒内での権力闘争ではありますが、その裏にはフィリピン経済界の思惑が働いています。一方住民は、何も知らされぬまま、発展から取り残され、戦闘に巻き込まれているだけなのです。

国軍、MILF、そして自警団が山野を移動し、相手のキャンプ地を襲撃します。その移動の道筋にある先住民族の村は、食糧や寝る場所の提供を余儀なくされます。あるいは村を棄て、森の中に避難するようです。ビラーンの小学校でも、子どもが通学中に襲われることを心配する親が学校に行かせない、ということがありました。

紛争が続くミンダナオ中部の湿地帯では川が増水し、田畑を覆ったまま何週間も水が引いていません。避難民は食料も医療もなく、困り果てているようです。

PIHS の活動地は、ヘルスポスト建設などの支援を行ってきたシギルのみ訪れることができました。シギルは海辺の集落で河口沿いにあります。ここではたびたび洪水が起こり床上浸水などの被害を受けてきましたが、今年６月に起きた洪水の被害は大きく、家々が流されました。小高い土地に避難した人々はいまだ元の住居に戻れず、掘っ立て小屋暮らしで、子どもたちはそこから学校に通っています。

洪水は天災ではありません。山から森林が消えたことが原因です。HANDS の活動のひとつである植林は、現地にとって大きな意味があること、そして情勢をきちんと把握することの必要性を感じた滞在でした。（九島）

2007年９月のシギルの海辺とダンさんの家

2008年９月の同じ場所。家は流され、漁船は１隻もない